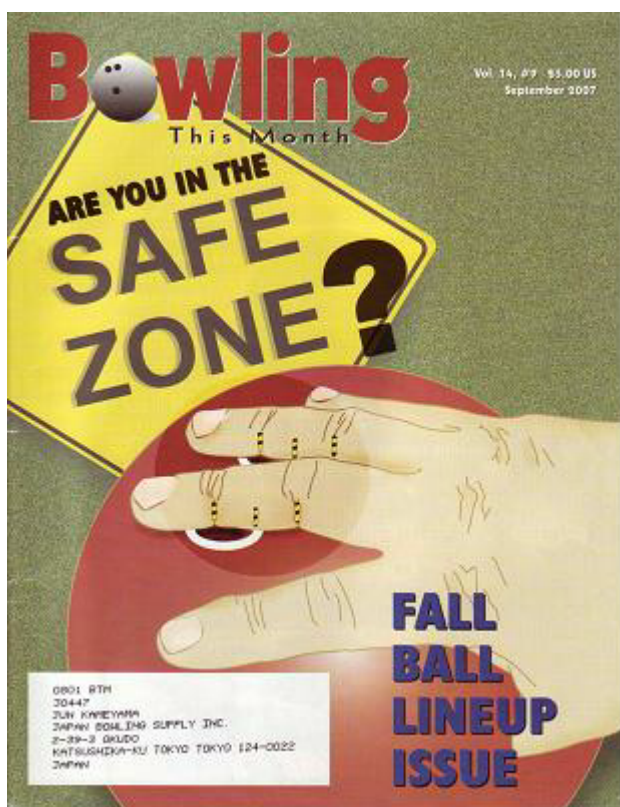


# Japan Bowling Supply news 2007. 10. 24.

Japan Bowling Supply Inc. ジャパン ボウリング サプライ インク 〒124-0022東京都葛飾区奥戸  
2-39-3 TEL03(3692)0739 \*\*\* 無店舗です\*\*\* e-mail: junk@japanbowling.com  
web: www.japanbowling.com( オンラインストア) www.happybowling.com (情報サイト)

貴方のスパンは **安全範囲内(Safe Zone)** ですか？



か？

今回の **JapanBowlingSupply** ニュース はいつもの新製品情報から趣向を変えて **スパンの話題** です。とかくドリラー任せにしがちですが、簡単なチェック方法がBowling This Month 9月号(左図はその表紙)に掲載されています。

- ①まず、中指と薬指の第一間接と第二間接の間に印をつけます。
- ②親指をサムホールに完全に入れ、中指と薬指をやや伸ばし、それぞれの指穴上に置き、力を抜いてみてください。
- ③左図のように、第一間接と第二間接の間がホールエッジと一致或いは±1/8インチ(約3mm)以内に収まっていれば、安全範囲内です。

※特に、長すぎるスパンはサム抜けの不安定等をもたらし、リリーストラブルのもとです。ボウラーそれぞれのスパンは、様々な試行錯誤を経てドリラーと創りあげていくものですから、ここでご紹介した安全範囲を外れたスパンを否定する物ではありません。しかしながら、日本では、ドリルに関して多くの場合、未だに数十年前のブームの時代のメジャー方法で計測されており、多くのドリラーが大昔の手法を踏襲しています。これに対して米国では、計測方法もボールの製造技術同様、日進月歩、大きく変化しています。回転数に代表されるように(多ければ良いとは限りませんが)、日米のボウリング格差が、誰が見ても分かる程大きくなった現在、あらためてスパンの検証が必要かもしれません。